

<講演>

- 尊敬されている有名人で、カミングアウトしている人の実話や講演。
- このことについて悩んでいる、生徒達と同世代の人々の生のことば。
- 外部講師による講演、ワークショップ。
- 自分自身が大学生の頃に、同性愛者でもあり、性同一性障害も持っている、本人の講演を聞き、とても印象に残った。本で読む等ではなく本人の生の声を聞くことができる機会があれば、とても役立つように思う。
- NPO 法人や同性愛団体などによる講演。
- 同性愛者や性同一性障害をもつ人の人格や人権が保障された形で、その人物との会話をする、知識で教えるという方法は採用すべきではない。これは人間の「生」そのものに関わる問題です。
- 実際にそのようなことで悩んでいる方のカウンセリングを担当された方の講演会などがあればいいと思います。
- 実体験に基づく話とロールプレイングできる話。

2. 環境

- 生物学的性と社会的・文化的性の相違に関する国民的コンセンサスが前提となるように思う。これがないと単なる思想の押し付けになってしまう。
- 性全体においてタブー視することのない環境、好奇の視線を向けない環境。
- 偏見や差別のない社会。
- 教科指導とは別の専門の指導者を配置すべきです。
- 授業で教える必要があると思うが、教材について簡単に思いつかない。教える環境としては、保護者の連携を密にすることが大事だと思う。
- 視聴覚教材の無償配布、学校教育での義務化など。
- その状況にある生徒がいて、世間的にも話題になったり、必要に迫られてきたら取り入れるべきだ。
- 人権を尊重するという環境づくり。
- 学校全体の取り組みとして生徒たちに教えていくという環境。
- 事前研修。
- 基本的な指導マニュアルがほしい。
- 道徳の時間に教える。(高校にも道徳の時間を設けるべきである)。
- 他の教員との意識の共通理解。
- 保健や社会科での関連単元をつくる。
- 専門家の支援 (TA など)。
- インターネット、PC、大型モニタ。
- 保護者・家庭の理解。
- 指導機会。
- 基盤となる人権意識が高められていること。
- 身近にそういう事例があること。
- 児童の発達段階、実態において、授業する必要を感じられるかどうか。

- 人権教育の時間。
- 今、どのような現状であるかが教える側も知識として少ないと思うので、現状や課題などがわかるような資料。
- 難しいとは思いますが実際にある苦しみの声、などを可能な形で本人から聞けるような環境。
- 教科書に載せ、指導要領にも記すこと。多くの資料も必要また研修も。
- 教材よりも研修や相談窓口が欲しい。指導内容について相談できるとありがたい。
- 授業等で話す「機会」をいかに作るか、だと思います。
- 生徒がお互いの個性を認め合う雰囲気。
- 法律など、それも選択肢にあるという環境。
- 詳しい情報、障害としての定義や特徴、どんなのがあるのかあればきっちり教えられると考える。
- 事前に、二次性徴や人を好きになることなどの性に関する学習を積んでおく必要があると思う。
- 「人」として生きることが大切であるということ（どんな性を選ぶとしても）。

3. その他

- よくわからないことが多いので、当事者の思い、考えから知っていききたい。
- 同性愛は授業として成立しない。社会的にカミングアウトし活躍している人の人生、苦悩と喜び。
- 高校生には、理論的にまとめたものを提示することが大切。
- 授業で教えるよりも LHR という形でとる方が効果的かと思います。また教員はその問題について真摯な態度でいることも必要かと思います。
- 授業に取り入れる事は難しいと思われる。
- カミングアウトする生徒がいるか、授業によって生徒がどのような反応をするのか、その反応によって傷つく生徒がないか等を十分検討し、その上で、ねらいが達成できる場合に授業展開したいと思います。
- カミングアウトしている生徒からの自主的な活動を支える形でなら役立つと思う。
- 内容による。
- 立場を認めてもらうための真面目な行動等について。
- 個性とわがままの違い、認め合うべきことと認めるべきでないことの違いについて、HR で話をしたことがあり、その中でこの話題にふれることができました。真面目に聞いていました。
- おもしろおかしくとらえられないようにしたい。
- 取り入れる必要がない。
- そういう生徒や保護者（オープンの場合）がおられた場合、「違いを知る」という内容の一部として、話題を出すと思います。
- 生徒の中に当該者がいるかどうかをリサーチしたデータや、その生徒達の思いを前もって知っておく。
- 現状では障害と考え、その人権を考える必要がある。ただ、医学的観点から見て治療できるものならすべき。医学部での教育、研究としてはやるべきで、「障害だから」「個性と考える」という事で、そのままにしておく事はいけない。教材として、遺伝子についての分かりやすいものを要する。
- 生徒の発達段階に即して行うべき。学年、年齢の枠は関係なく取り組みたい。
- 個別指導。

- とくに教材は不要。授業の展開の中で必然性が生まれてくる。
- 古典常識等を通して、ごく自然に取り入れたい。
- 教材は複数必要だと思う。
- 生徒や保護者から個人的に相談を受けたら、養護教諭や専門家と対応を模索すべきですが、全体に授業として「こうである」と教えるのは難しいと思います。例) キリスト教は同性愛を認めていません。生徒の中にクリスチャンが居たら、授業は苦痛だと思います。
- NPO 法人などの当事者支援グループ。
- 「共同参加社会をつくるということ、公民の資料集（ワークブック：学宝社）に掲載（トビラのページ）」に出ている、おどろいたが、生徒は社会科（3年）の授業で抵抗なく読んだ。偏見や人権を守るという観点は、この基本と思えた。
- アイデンティティの確立という視点では、自然にふれる問題であると思う。
- 人の値打ちはそんなところでははかられない、何をもって人となせるのか？を問われるような教材を選びたい。
- 人権教育の立場から、異なるものを排除するのではなく人間としての関わりの大切さを教える、人間愛の教育、お互いを尊重しあえるように、しかし、性差があること、生物学的な性の意味についてはおさえなければならない。性同一性障害や IS については先天的なこともあるのでわからないが異性愛に変化する原因が、精神的なものであるならば、改善することもありえるかもしれないので充分知識や情報を教師が得られることが必要。
- いじめの防止につながるように思う。
- 男性の体のしくみ、女性の体のしくみを話し、性について詳しく話をするのが大事である。家庭では親が時間も余裕もなく忙しいため話すことが家族の中ではなかなか話せないし、できないと思う。
- 精神面で少しでも楽になるようなケアの仕方集。

自由記述

(お気づきの点があればお書きください)

対象：保育園職員

注) 重複したコメントは適宜省略し、誤字脱字などは出来る限り修正済み。

同性愛・性同一性障害に関して

<同性愛・性同一性障害に関する教育について>

- 思春期の時期に知らなければいけない事が多くあると思うが、小学校高学年から「命の神秘」(TVで写真が紹介されていた)等の教材等で命の誕生を学び、そのうえで性についてもっと掘り下げた教え方があればと考える。セックスは子どもを作ることだけではない。欲望の一つであるという事を教育側がどう教えるのか難しいと感じる(人類最初の仕事が売春だった、というような雑学も時として必要なのかも…) 自分も悩むところです…。
- 保育園時代は何をしても「かわいい」で過ぎていくので、自分に気づいた頃の手立てをしてあげてほしい。
- 今の若い人の考えと、年齢のいった人の考え方が違うと思う。学校の教材でも、小学校高学年ごろ「これ何やろ」と興味をいだいているときにこそしっかりと一人一人の子どもたちに勉強し身につけていき、自分たちの考え、「思い」がしっかり言える人間にならないといけないと思います。

<同性愛・性同一性障害そのものについて>

- 芸能界でオネエが身近に感じる。金八先生のドラマで参考になったことがある。
- 教えたから教わったからすぐに納得できることではなかなかないと思うし、自分自身にふりかかっただけでなければ、どこまでも他人事になってしまう事だと思います。まああることだと思っただけでもわが子の事(わが子が同性愛者だ)となると、個人の自由意志だと思っただけでもわり切れないように思います。

<経験・体験>

- 保育園 2 歳児クラスで 10 年以上前に担った女兒が、小学校高学年の頃性同一性障害と風のたよりに聞きました。2 歳児だった頃のことをふり返っても、つかみどころのない子だったように感じますが、年齢が小さい間は、男の子がママごとをよるこんでいたりおしゃれコーナーでスカートをはいたり、女の子が父親の口調をまねたりするので分からないですし、後に聞いてもすんなり現実を受け入れられない感じがします。

その他の感想

<研究への期待>

- 公的な目が、この様な事項に向く様になったことは、世情の変化、社会の変化や、多様な問題の現出等があったからこそとは思われるが、同時に喜ばしい変化だとも思える。「色んな性の形がある」

という点でも、学んだ事のあるなしで大きく違うと考えられるから。視野を広く持った若人の育成に、重要な要素が一つ見つかったと、個人的に思っているのでぜひアンケートを生かしてほしいと願う。

<その他>

- 身近にいないため、よくわからない。学習する機会が必要であると思う
- 十分答えられなかったです。保育園ですので子どもたちに絵本を見せ、年長児ぐらいになると色々質問もありながら、見せる。話をする程度です。
- 対象が園児なので、回答が難しかった
- 性に関する知識は必要だと思います。ただ子供達に偏見と間違った知識だけは植えつけたいと思いません。専門家の方からの話は大いにいいことだと思います。いろんな事を知らせすぎはどうかと思います。変な知識だけが一人歩きしそうです。

自由記述

(お気づきの点があればお書きください)

対象：幼稚園職員

注) 重複したコメントは適宜省略し、誤字脱字などは出来る限り修正済み。

同性愛・性同一性障害に関して

<同性愛・性同一性障害に関する教育について>

- 保育現場で“性教育”というのではなく“命の学習”といった形で、他県で働いていた時にした事があります。幼児にとっての自己肯定感を育てたいという目的もあり、「愛されて生まれてきた」という事を伝える保育を親子でしました。幼児にとっては、まずそこが大切だと思います。

その他の感想

- 身近なところにはない話なので、むずかしいですが将来子どもたちがぶちあたる壁だとすれば理解しておく必要があると思いました。
- 幼稚園の子ども達に話をすることはとてもむずかしいことであると思われる。まだどちらとも考えられない子がほとんどであるし、男女の区別がやっとなのでむりに教えることもないと思われる。
- 保育園・幼稚園の教員なので、とても答えるのにむずかしかった。
- 園児に対しての指導法として内容が難しいように感じました。教員の研修としてはあってもよいと思いますが…。
- 勉強不足でわからない事ばかりなのですが、参考資料のグラフを見て、改めて自分自身のことでも悩み苦しんでいる人が多いこと、又その年齢が低いことを感じました。その人たちが、病気だ、変だと思いきまなくてもいいように、自分を素直に受け入れられるように子どもたちに知らせると共に社会や周りも人の違いを受け入れられるようになる必要があると思いました。幼い園の子どもたちには、みんな同じ人間で尊い存在だということを、日々感じられるように、過ごしていきたいと思います。将来、自分と人との違いを互いに認め合えるように。

自由記述

(お気づきの点があればお書きください)

対象：小学校職員

注) 重複したコメントは適宜省略し、誤字脱字などは出来る限り修正済み。補足説明が必要だと思われる部分は《 》で説明を加えた。

同性愛・性同一性障害を学校現場で扱う事について

<教師側が知識不足・研修が必要>

- 小学校6年生くらいで一度指導したいと思いながら、保護者、教職員がそこまでまだ研修して理解が深まっていないような気がして、指導に勇気がいる。又、どんなふうに指導したらいいか、具体的な教材も含めて、もう少し研修が必要かなと思っている。自己肯定感をもてないで自殺を考えたりの生徒がいる実態を知れば指導は必要だと思うが、指導方法等で悩む。
- 研修等を参加する場を作ってほしい。夏の研修など。時間的に余裕がある時。また、性同一性障害がある(当該生徒がいる)学校体制などおしえてほしい。
- 娘が高校生のころ友人に性同一性障害を持った人が何人かいた。本人たちの悩みは深く学校でも認める方向で何らかの指導があったように聞く。きちんとした指導を学校でもできるように、ぜひ研修の機会を持ってほしい、早急に！

<研修に関する意見>

- 学習したいが学校が忙しくてあまり研修できない
- 性同一性障害の研修があれば、ほぼ行くので数多く機会があるとうれしいと思います。成人された方の話をききますが、幼少時代や思春期をどのようにすごしたか、また児童にどのように接していけばよりよいか…など、実際現場での対応について、もう少し進んだ話研修をつんでいきたいと思っています。

同性愛・性同一性障害に関して

<同性愛・性同一性障害に関する教育について>

- 男の子っぽい女の子、女の子っぽい男の子はいたが、まわりの子ども達も、親や教師もその子らしさを自然にうけとめていたように思う。深刻な例を体験していないせいもあるがセルフエスティームを深めることに少し視野を広めていけばよいのでは？テレビ等でおネエキャラとかが頻繁に出ているので、おもしろおかしくとらえている子も多いと思う
- 性教育について学習指導要領のしぼりがある中、人権を守るために必要である性同一性障害、同性愛について、指導にふみこめないのではないかと思う
- エイズを指導してきて(過去)思う事。最近、性交に関する指導の仕方について、あまり教えない方がよいのでは…という考え方が出てきているのでしょうか。過去において、いっぱい研修して、早いうちから(低学年から)はずかしさやいやらしさが出ないときから自然に教えていく…オープンにして、子どもの疑問に素直にわかりやすく教えてあげる…というのではないのでしょうか。

- 意識を高めることにより、その人が社会で生きる（豊かに生きる）基盤としての教育が可能となります。現実には、教員の意識改革、指導内容、指導者の限界など、深刻は山積していますが、その取り組みは、人間の人権について再認識・再構築する営みでもあると考えます。
- 社会の偏見・差別意識について小学校の時から学ぶことが大切だと思う。一部の情報にうわさも含むので間違った認識を持つことにならないために。
- 小学校において、低学年から「男だから・女だから」という言葉や決めつけはよくないという事で指導はしています。だけど中学年で保健の学習がはじまり、違いについて知った時、子どもたちの中で「男って…、女って…」という思いが生まれるように思う。その時期の教育はとても大事だとあらためて思います。知識→行動に表せるようになるには高校くらいまでむずかしいのかなと思います（同性愛、性同一性障害において）。
- 性同一性障害や同性愛について少なくとも中高の学齢ではふれておく必要があると思うが、何分（小学校も含めて）教科の授業時数を確保するのが精一杯であるのが現状です。その意味でも厚労省と文科省がタイアップして、必要に応じて学習指導要領に組み入れていくのが確実に定着していくのではないかと
- 性に関する授業は本来ならば中学生で学ぶべきものだと思う。しかし「キヤーキヤー」言って授業にならず、真面目に聞いている子どもが「お前なんでそんなに一生懸命聞いているんだ。」などの事を言われ、いじめにつながるかもわからない。本当ならば、そのような発言をしない子どもを育てるべきだが、それはキレイ事だと思う。純粋に話を聞く小学校で様々な内容を指導した方が良い。

<同性愛・性同一性障害そのものについて>

- 性同一性障害はともかくとして、同性愛については理解できない。
- 同性愛と性同一性障害がごっちゃになってしまうことが多いのではないかと思います。同性愛に見えても性同一性障害があるなら異性愛であるだろうし。この障害の理解については、本当にむずかしいと思います。
- こんな時代なので、何があっても、ありうるのだろうと思う。生物の学習をしていたら、動物の中には様々な性の形態があり、人間だけが例外とは思わない。それでも、同性愛（特に男性）だけは、どう理解しても、感情では受け入れられない。年を重ねれば重ねるほど何か汚く感じるのです。

<同性愛・性同一性障害を取り巻く社会について>

- このアンケートのように同性愛者や性同一性障害の人は住みやすくなってきたがまだまだ偏見がある。一人の人間としてみとめあえる社会になってほしいと願う。
- 性についての見識を深めるということは、現代の状況から考えて必要なことであると感じる。以前まで《より》は、内に秘めていた感情も受け入れられる？（昔に比べれば…）ような状況にあるので数が一気に増加したように感じるが出せない社会だったと思う。ただし、性について（同性愛など）閉鎖的に考えている方々もおられるので、積極的に推進する必要があるとともにより一層、多様な認識ができる社会を形成していくことが大切である。一つ懸念するのはどこを歯止めとするのかということも考える視点も必要では？すべてを寛容にしていくのも問題とも思える。
- このあいだ、自分の教え子の結婚式に出席した。小学校のとき女の子だったのが、その時は男、女

性との結婚であった。まあそれはそれで幸せになってくれたらそれでいいと思う。人に迷惑さえかかれば自由でいいのではないか。でもこんな情報は流しすぎると危険に思う。自分たちは何らかの情報で自分を男とか女とか認識しているが、情報過多は迷いを生じる元かも。

<同性愛・性同一性障害と向き合うための提言・意気込み>

- 同性愛や性同一性障害について、必要性があれば学んでいたと思うが、その機会がなかったこともあり、十分には知らないことが多い。ただ無関心でいることはいけないと思っている。「心の性を生きる」等の書籍は読んでいます。自分自身の偏見や差別性についても、かなえるためにも、学んでいかなければいけないと思う。
- 性に関する情報が世の中にたくさん出ている。ニュースでも取り上げられることもあり、子ども達の耳に入っている（小さい頃から）。性に関して抵抗のない小さな頃から少しずつ指導していく必要があると感じている。
- もし、クラスやまわりにそのような人（性同一性障害や同性愛）がいたとしても、そのことに触れてほしい人が少ないように思います。そのバリアをどのように授業に取り入れるかが難しい。
- 今まで踏み込んでこなかった、いわゆるタブーとされてきた問題に一步ふみこむことはよいことだと思う。親にも友にもいえない問題なので、学校で話をしてやったらよいと思う
- 同性愛者の友人が数名いるので、普通のことだと感じています。日本では、まだまだ偏見があると思うので、教育現場で伝えていくことは大切だと思います。変に「同性愛者への差別はだめだ」と言うよりも、「同性愛も異性愛も同じこと」という点を伝えた方がよいと思います。
- 夏休みの研修で、性同一性障害の高校の先生のお話を聞く機会がありました。性の多様性について、教員もしっかり研修し、理解し、子ども達の指導にあたらなないといけないと思いました。性差別など、ない社会になって欲しいです。
- 最近、テレビでよく性同一性障害の芸能人など、よく出ているが、偏った見方も出てきているのではないか。現に、大人になるまでの小・中時代にいる子ども達は、苦しい思いを密かに抱えているのではないか。そうであれば、その気持ちに少しでも寄り添って、一緒に考えていきたい。教員も、知識がいると思う。
- 知識でいくら理解したように思っている、差別意識は潜在化しています。実際に自分の目で見、耳で聞くこと、出会う事で指導者として、自分としての立つ位置が分かると思っています。
- 同性を愛することも異性を愛することも自由であると思います。性同一性障害については早い時期からの対応、周りの理解が大切であると思います。
- 性教育に対する抵抗があると聞きますが、生き方を考える教育として義務教育に位置付ける必要があります。命を大切にする教育として見直していきたいものです。誰もが大切にされる自由な社会を築くためには、欠かすことができません。

<経験・体験>

- 大学で、男の子に多い名前に改名した女友達がいました。その前は、女の子に多い名前でした。服装も絶対にスカートをはかないし、言葉も男の子っぽい言葉遣いで話していました。もしかしたら、性同一性障害なのかな？と思います。でも、その子は男でも女でもその子だし、私は気にしません。
- 中学校で教えていた男子生徒から卒業後、数年経てから、実は男性と暮らしている、と告白された。

彼は職場や家族にもカミングアウトしていて幸せだと言っていたが、いろいろな悩みを抱えている様にも感じた。中学時代は人気者で女の子とも付き合っていたことを知っている私はおどろいたが、彼は一生懸命生きているようで、それだけで充分だと思った。どんな生き方も受け入れてあげよう、と思っている。ちなみに、HIV検査も受けているし、予防もしている、と言っていた。

その他の感想

<研究への期待>

- 是非新しい一歩が進んでいくことを期待します。
- 近年、C市人権教育研究会でも課題別研修の中で、性の多様性を中心に講演していただきました。全人教《全国人権教育研究協議会》の全国大会の中での報告にも、増えてきているように感じています。そういう場でもっとお話しくださることで自分自身の理解も少しずつですが深まってきているのではないかと思います。ですが、実際の指導をどうしていくかという部分では、まだわからない部分が多いので、そういう研修会や教材開発をすすめていただけたらと願っています。よろしくをお願いします。

<その他>

- 同性愛と性同一性障害が同じであり、わがままや病気であるという意識を本人ももつことが一番の問題だと感じる。
- 人が人として生きるのに、偏見を持たれたり、もつのは、おかしい事である。
- マスコミや、本、インターネットの情報があるが、どこまで信頼性があるのかが、よく判断できない。正しい知識を得ないと、教えられないと思います。
- 回答に困る問題があって、少し難しかった。自分自身も知らないことが多いなと感じた。
- 一度考えてみるいいチャンスになりました（このアンケート）
- 性同一性障害や同性愛について“よくわからない”事が多いので、正しいことを知りたいとアンケートを書きながら感じました。
- 新しい障害や、〇〇教育が、現場で指導するように求められるなら、優先順位をつけないと、指導者は倒れてしまいます。現場の実態を経験した上で、判断していただきたく思います。

自由記述

(お気づきの点があればお書きください)

対象：中学校職員

注) 重複したコメントは適宜省略し、誤字脱字などは出来る限り修正済み。補足説明が必要だと思われる部分は《 》で説明を加えた。

同性愛・性同一性障害を学校現場で扱う事について

<教育現場で扱うことが必要である>

- 性同一性障害の生徒を以前に担当した時は、社会的にも認識が少なく、生徒本人もそのことがわからずに不安定でした。中学生の中には、自分のことが整理できずに、不登校という形で表れている中に、この様な問題を抱えている生徒も多くいるように思います。誰にも相談できずに、卒業してから、実は性同一性障害でしたと手紙をもらったケースもあります。知識だけでも第二次性徴の時に、全体に教育現場で伝えられる機会があればと思う。
- 最近いわゆるオネエ系というフレーズでメディアに出る方々が増えてきたと感じます。昔に比べればそういった面で子どもたちの意識も性同一性障害などについて受け入れる下地はできてきたかと思えます。が、メディアの世界は華やかなので、現実離れしており、自分たちの身近な事として受け止めることや、悩み苦しみ、自分はどうすればいいのかなど、様々な問題は解決されていません。学校教育として伝えていくべきだと思っています。(大変デリケートな問題なので、伝え方が難しいですが)
- 同性愛や性同一性障害である人は隠しているだけで周囲にたくさんいると思う。それらは、本人の意思とは関係なく、そうなっているのだから。そういった人たちが恥ずかしい感じで隠してしまうようになっている社会的な意識や道徳感情があるからだと思う。そういった点を変えていくためには学校教育でもこれらのことに触れていく必要はあると思う。

<慎重に扱うべき>

- 同性愛や性同一性障害を中学区の授業に取り入れることはデリケートな問題やそこから始まる恐れのあるいじめなど様々な問題があり、実施するのは困難である。社会の平等権を単元で、上記に関する差別を取り上げたが、深めた授業は難しい。同性愛や性同一性障害がもっと世間で認知されれば生徒も理解しやすくなるが、今の段階ではあせらず、すこしずつ教えていくべきだと考える。

<教師側が知識不足・研修が必要>

- 全くわからないので学校でも研修の場をもってほしい。この障害で悩んでいる生徒は絶対いると思います。でも、いたとして対応の仕方がわからないということが現状です。
- 現在では性に対する情報がとてもありすぎてどれが正しくてどれが間違っているのか何を知っておくべきなのか？自分でしっかりと判断できる力をつけることが必要であり、自分(教員)の方も研修を積み重ねていくことがまた大切である。
- 教師になってまだ半年ということもあり、同性愛者・性同一性障害を持つと思われる生徒にはまだ

関わったことはないが、この先関わるることがあった際に、うまく本人の不安を解消できるのか？周りへの配慮をうながすことができるのか？と聞かれれば自分自身には十分な知識が備わっているとは言えない。多様な生徒に対応するためにも教師の研修知識の取得が必要であると感じます。

<研修に関する意見>

- 夏休み期間中であれば研修を受けやすい。
- 公的機関の研修になかなか良い物がないのは残念（古かったりする）
- 保健体育の教員として性について、真摯であり、また毅然とした態度で指導したいと常々思っています。中・高生を取り巻く性についての情報、事情は深刻な問題と感じています。私自身も正確で公平な知識を得る機会があれば参加したいという思いです。
- 個人の知識対応力が向上することはいい、自分も向上したい。研修の時間が増えるのはいいが、何かが減らなければならない。部活を減らしても夏休み中働くような現状の打開。
- 研修を受ける機会があれば1番よいのですが。正直時間を取れるか、参加できるか？必ず参加の研修にしてもらわないと難しいです。パンフレットなどがあるとよいのですが。パンフレットだけでは周知徹底するのは無理だと思います。また、どこの単元でふれるのか？性感染症の部分でふれてしまったら、性同一性障害、同性愛＝性感染症というイメージをうえつけてしまうのではという気がします。1年生の性機能の成熟や性とどう向き合うかという単元でふれるのか？教科書に少しでも記述を入れるとふれられるのかな？と思います。

同性愛・性同一性障害に関して

<同性愛・性同一性障害に関する教育について>

- 性同一性障害や同性愛の人は認められるべきであると思うが、あたかもそれが正しいごとく児童、生徒に広めるのはよくないと思います。性教育も同じですが、人としての尊厳からアプローチすべきだと思います。
- HIV/AIDS の治療が進んでいる時代に、AIDS とほかの性感染症と区別して教えることはさらなる差別につながるのではないか？不治の病としてイメージを持たせることにも抵抗を感じる。また同じく歴史的背景はともかく、セクシャルマイノリティの問題と AIDS を関連づけるのもおかしいのでは。若年層の感染や親子（母子）感染などもあるので、そちらの指導や対策も必要だと思う。
- 新指導要領になると教科の時間が増え総合や道徳の時間が少なくなっています。性教育をとおして人間の尊厳についての学習はしています。その他中学校で学習できる間にといろいろな学習を取り入れています。性同一性障害についても大事な学習だとは思いますが、どれくらいの時間確保できるかはわかりません。
- テレビや雑誌などで子ども達は情報を与えられることが多いのでまちがってとらえたり、人権を侵すような言動にならないよう、“正しく”理解させたいとは思いますが、非常に難しさを感じる。何が“正しい”か自体かなりアバウト。すべての教師が共通できる場所は結局人権尊重。
- 「みんなちがってみんないい」が基本で受け止められていれば、理解できると思う
- 大切な友人が MtF です。初対面でそのことを知らされ大変なことをさらっと言っただけのところに感激。以来、彼女をサポートしたいと思っています。彼女の幼いころからの苦しみを思うと、“学校教育の責任”を強く重く感じます。

- 宗教や思想との関わりもあるので、性的指向や性同一性障害に関する指導は多文化共生社会になればなるほど難しいのではないかと感じています。
- 性の問題についてしっかり指導ができるのは学校現場であると思います。その反面児童、生徒への指導のためカリキュラムは確立されていないのが現状です。発達段階に応じた指導のあり方を専門家が確立し、学校現場が周知していく必要があると思います。
- 「人と同じ」であることが無難だと感じる傾向にある日本人にとっては人と違う特徴や障害について正しい知識と考える機会があった方が良いと思う。できることならば、義務教育中にできると良いが、各教科の中に組み込むよりも、道徳や総合的な学習の時間などで、人間教育の一環として行う方が良いのではないだろうか。(同性愛なども、国や州によって認められ方が違うという社会情勢も含めて)
- 世の中でタブーとされていることで、苦しんでいるセクシャルマイノリティの方は数多くいると思います。私の友人では何人か同性愛者や性同一性障害ですが、その人の人間性は素晴らしいです。無知が引きおこす差別・偏見こそが人を傷つけ、人間性を否定すると思います。早くからの正しい学習が必要だと思います。
- なかなか難しい問題です。こちらが真剣に話をしても、受ける側の気持ちがどうであるかによって伝わっていかない事が多く感じます。AIDS を時間をかけてやるのですが聞いている生徒とそうでない生徒との差がありすぎて今後生徒達の将来が心配になります。
- 様々な道徳観を認める世の中になる一方で逆に「差別」「偏見」という言葉があふれ、難しいバランスだなーと思っています。生徒や保護者も多様な面を主張できるようになりましたが、そこ「教育」とのバランスも大切だと思います。
- この問題の難しい点は「同性愛は異常ではない」と主張すると、主張者自身の性的指向が同性愛だと思われがちなどころではないか！？異常ではないから同性愛だと思われてもよさそうなものだが、実際には余りに偏見が強くて、同性愛だと思われるだけでもいろいろマイナスになってしまう。けれども、参考資料にあるようにゲイ男性が自殺(未遂)にまで追い込まれてしまう現状は異常であり、早急に世間の偏見が払しょくされるように望む。またそれは教育の役割も大きいと思う。
- 教師として学ぶべきモノ、生徒指導に聞いて多くの課題があり、性同一性障害や同性愛 etc の極めて少ない(これも偏見かな?) 事例に対して取り組む時間がない。
- 性的な指向も個性のひとつかもしれない。それについてどう対応するか、は基本的人権の尊重を基礎におくことになる。他のいじめ等の対応と同じではないか。ただし「対子ども」の場合はかなりデリケートな面が出てくると思う。(まだ「決定」に至っていない場合があると思われる。)
- 性教育や HIV/AIDS について学校での教育の必要性を言われているが、家庭は子どもの性の指向や性教育についてすべて学校まかせにする風潮にギモンを感じる。いくら教育として学んでもその子の生き方の問題に大きく左右されること。公教育が勉強もしついても、性教育もなんでも屋さんになってはいけないと思う。家庭の教育力は問題にならないのか...と思う。
- 今まであまり取り上げられていなかったテーマを突然学校の授業で扱うというのはとても難しいことだと思います。教育だけではなく、日本という国家全体の社会問題として取り上げていく必要があるのではないのでしょうか。

<同性愛・性同一性障害そのものについて>

- 今の時代だからこそ表に出てくるようになり、自ら公表する人も出てきたと思う。昔と今を比べては意味ない。同性愛、性同一性障害はこの様な1つのアンケートで答えられるものではないと思う別々のものではないだろうか。自分の小さい時、スカートは大嫌いで中学の制服がなじめなかった経験があり、今でも、なぜ制服の女子にズボンがないか正当な理由がわからない。今はごく普通に生活をし、場面で必要があればスカートも着用する。が、小さい頃は今考えると性同一性障害の一つであったのだろうと考えてしまう。
- 全く自分には関係のないことだと思っていた。でも現在ではそのような人が、色々な所で活躍されている。自分のクラスやもっと身近なところでそういう人がいたらもっと感じ方が違うのかもしれない。
- 思春期だと同性愛っぽくなる子は普通に見られると思う。ただその生徒から、その対象として教員が見られると少々困ったことになる。
- 性同一性障害や同性愛に対して知識がないということに気がつきました。もっと知り、知ろうとしなくてはいけない。
- 4年前に「中学校で制服のスカートをはくのだったら自殺する」のようなことを言った生徒がいた。教育委員会もしたり顔の講師をよこし、我々も何回か校内研修をうけさせられた。が、入学してきた生徒は女子にだきついたり（他の女性生徒と同じ様にという程度です）ごくごく普通に過ごし、あげくのはて、高校ではスカートの制服を当然の様に着用している。わがままと性の多様性の区別をどうつけて、みきわめていくのか。
- 好いたほれたは頭でコントロールできるものではなく惹かれあってしまうものなので、簡単ではないし感情がついてこないと思う。もしもそれをコントロールするのであれば、催眠療法が有効だと思う。それに否定されるが、イコジになる人も少なくともいると思う。逆効果になりかねない。
- 同性愛・性同一性障害がいても特に何も思わない。自分はそれに該当はしないので、特別な興味・関心はない。
- 大事なことに気づかせて頂きました。本県でも事例の報告がなされている中で、真剣に考えたいテーマであると思います。
- 個人的にはただたんに男っぽい女性や女性っぽい男性などと性同一性障害のちがいがよくわからないです。また、エイズに関して、「ゲイ」という認識が強いですが、のこりの3割の中には「男女間の性交渉」もふくまれています。「男性間の性交渉」をつけると、どうしても女性は無防備になります。エイズも他の性感染症と同じと考えてもいいのでは？と感じました。

<同性愛・性同一性障害を取り巻く社会について>

- 私は友人や知り合いに GID や同性愛者がいるので、そしてもともとあまりそういうことに偏見を持ってはいないので彼らを受け入れることができます。しかし、GID も「障害」といわれている、そして現実には様々な性の形がある。など本当にたくさん問題があると思います。「自分が男なのか女なのか」わからない、どちらも持っているという友人をもつとどうどうと生きていける世の中になってほしいと思います。
- 学校というよりも、社会として大人や青少年に向けて啓蒙する必要があると考えます。「性の多様性」として容認すべきことかはわかりません。

- 少数派はいつの時代もなぜ迫害されなければいけないのか。自分と違うものを受け入れるのはそんなに難しいことではないと私は考える。公共のメディアの放送も偏見をもって行ってはいけないし、雑誌などの記事の書き方も針小棒大に言ってはいけない。それを作るほうも悪いが、うのみにしてしまふ視聴者も考えものだと思った。
- 友人に同性愛も性同一性障害もいるので、いわゆる世間の無理解は話題になる。教育現場は、社会の縮図のように「差別」が存在するので、自分も生徒も「差別」の存在は知った上で「差別しない人」でありたい。
- 実際カミングアウトできない社会的現状がまだまだあるのは残念です。
- 同性愛以外にも男女の体の差が形成されない病気などがあると新聞で知りました。そういうマイノリティの方がのぞんでいるのはしっかりとそのことについて社会が知ること、受けとめることだと思います。このようなアンケートをきっかけに、社会的な取り組みがされることをのぞみます。

＜同性愛・性同一性障害と向き合うための提言・意気込み＞

- 私個人の意見だが、教育現場で一斉に教える問題としてはなじまないが、生徒の相談等に応じられるように知識をつけたいと感じた。
- 時代の流れの中で、事実を知っていく必要があり、十分な理解の中で指導をしていきたい。
- 同性愛、性同一性障害は、様々な形があるにも関わらず、テレビ、メディアでは、いわゆる「おネエ系タレント」のくくりになっている。障害をお持ちの方の中にはそうでない人もいるので、固定観念化されない配慮が必要だと思う。
- この問題に関して、自分は全く勉強不足です。これから研修していきたいと思います。
- 性同一性障害は最近認められるようになった考えなので、学習したい
- 今まで気づかなかっただけで、生徒の中にいたかもしれないと思うと、その生徒の話を聞いて理解してあげられるだけの知識や心構えをもっておいた方が良いのではないかと思う。
- 友人にいたので差別的な発言（本人は無自覚でも）は気をつけなければいけないと思う。
- 自分自身も、中学校の頃に悩んだ気がします。女はイヤだ、男になりたいなど。誰もが悩みを持つことだと思うので、生徒の理解者である教員が知識を持つことは大切だと思います。また、中学生だから、性教育という考え方が多いように思いますが、子どもの就学前から話にふれていくことで、年齢を重ねても抵抗感なく話を進められると思います。
- 子どもたちの中で同性愛や性同一性障害についてのイメージは今現在マンガ等であるような BL（ボーイズラブ）のようなものだけで、実際に…という部分でとらえられていないように感じます。しかし、興味はある様で7月に本校で3年生（中学）対象に行った性感染症の授業の時にも「同性愛者は性感染症になりますか？」等の質問も多くありました。アダルトビデオや雑誌等から性情報を得ていた子どもが同性愛についても BL のマンガ等から間違った知識を身につけてほしくないなと思います。授業でもジェンダーフリー等の問題から同性愛や性同一性障害の話につなげようかと思ったのですが、内容的にも難しく研修や文献等もなく出来なくて…今後は取り入れていきたいと思っています。
- 性同一性障害については医学的に正しい知識をもちたいと思っている。専門家による講演会という形で、生徒（中学生）と一緒にきけたらと思います。
- 性同一性障害、同性愛については、私個人としては（周りにそういう友人もいるので）世の中にも

っと理解されるべきだと思います。しかし、このトピックは、宗教や個人の考えも尊重されるべきであり、学校という「教える」教育現場で「こうである」と説くのは難しいと思います。学校現場では性についての悩みを抱えている子ども、親、共に存在しますが、保健室やカウンセラー等、個人対個人で話をするのがベターなのではないかと思います。子どもに授業をするというよりは、大人（教師）の知識不足を解消するために、まずは「こういう生徒もいる（可能性がある）」と教師が分かっておくほうが大切だと思います。

- 性同一性障害も同性愛も「いやらしいもの」くらいにしか考えていない人が多いと思うし、私もそういうところがあった。わからないからよけいだと思う。まずそういうことを知りたいし、生徒全体にも知らせたい。
- 教員になった当時は、「性同一性障害」などという言葉は聞いたこともないものだったが、時代も変われば、常識も変わる。今の知識・常識にとらわれない姿勢を持ち、人として正しいことを追求し続けることが大切だと感じた。
- 今まで生きてきた中で性同一性障害の人や同性愛者に会った事がなかったので（気付かなかっただけかもしれませんが...）それを学校で授業として取り扱う事にピンときていませんでした。自分も学べる機会があれば参加してみようと思います。

<経験・体験>

- 友人の娘が性同一性障害と診断され、親と子でいろいろな問題が持ち上がり、この事の重要性を感じる事となった。まだ数は少ないが、今後は考えていかなければならない事の一つだと思います。
- 昨年度同和教育大会（夏季）に出席したところ、小学校教員をされている男性に分科会で同席し、女装をしておられたので、何とも理解に当初苦しんだ。しかしそうは言っても自分も働きやすい（動きやすい）服装として、パンツスタイルであるし、化粧をする気もこちらはないし、各自の服装の好みで判断するのは如何かと思ったし、話をしていると、ずいぶんと、自分の偏見がわかって、反省しました。

その他の感想

<研究への期待>

- 教育現場としては、これから無視できない課題であるので、ぜひ、このアンケートを活かし、教材化してほしい。
- 中学校の養護教諭です。年間 36 時間の道徳の中で性教育を組み入れています（3～4 時間）同性愛・性同一性障害についても 3 年生で学習させたいので、教材について考えているところです。是非、中学校で使用できる教材について開発をお願いします。
- こういったアンケート等が現場で生かされる様な取り組みを期待しています。

<その他>

- やはりこれからは、大切な課題として（人権の面から）受け止めなければならないと思います。性のことだけでなく、いろんな面でお互いの個性をしっかりと受け止められるだけの力をどう育てるかは、大切だが難しい。
- 本題は学ぶ機会が少ない。メール配信でも小冊子でも発行いただければありがたい。

- 薬物やエイズなどの性病に関してはきちんと教育しておかないとどんどん増加する恐れがあるので、できるだけ早い時期からの教育が望ましいと思う。
- 新聞やテレビなどで正面から性同一性障害について取り上げた記事や番組が増えてきたことで、障害に悩み苦しんでいる人達の気持ちを理解しようという動きは確実に広がっていると思う。
- 性同一性障害の確証はどうしたら得られるものなののでしょうか？自分が思っているだけ…という人もかなりいると思います。
- 高校生にとって妊娠や性感染症は指導されていると思うが、性同一性障害も触れて理解して欲しいと思う。(今後該当する人に出会う可能性はなくはないのだから)、少しでも知っているのと知らずでは違うと思うので。
- アンケート結果のフィードバックをよろしくお願いします。
- 生徒にどのように接したらよいか具体的に説明できるような教材があればと思います。
- 自分では偏見や思い込みがないつもりでも、ことばの使い方などが難しいと感じます。
- なかなか難しい問題である。このアンケートだけでは言いえないことばかりである。
- 同性愛や性同一性障害の問題は大切なのですが「厚生労働省エイズ対策研究事業」として、予算をかけて大々的に広報や情報収集をするべきなのは血友病患者や輸血患者に赤十字社などとの不手際もあってエイズをまん延させてしまった問題で日本のエイズ患者は、旧厚生省の失策が主因となっている事実を大々的に知らせて、同じ過ちをしない様に研究すべきだと思います。

自由記述

(お気づきの点があればお書きください)

対象：高等学校職員

注) 重複したコメントは適宜省略し、誤字脱字などは出来る限り修正済み。補足説明が必要だと思われる部分は《 》で説明を加えた。

同性愛・性同一性障害を学校現場で扱う事について

<教育現場で扱うことが必要である>

- ある授業で自分の事を述べる発表(3年の最後)があり、発表の前日、担当している男子生徒が「自分はゲイである」旨をみんなに言いたいと言ってきました。私一人の判断では、あまりにも問題が大きく、ほかの教員に相談したところ、中の一人が「それは病気ではないか、病院へ相談に行ったのか」という発言を本人(当該生徒)に向かってしました。その瞬間、この教員に相談した自分の愚かさ(しかし、その教員は当該生徒の担任だったので言わないわけにはいかなかったのですが)と、教員自身の知識のなさ、教員の持つ差別性、世間への怒り etc.いろいろなものがわき上がりました。幸い、ほかの教員、それに何と言っても当該生徒の友人の温かい心で、発表は無事終わり、彼自身は助けられ、私は多くの事を教えられました。できるだけ多くの人がこの問題にかかわり、勉強することが必要です。
- 気はついていないだけで、同性愛、性同一性障害の人はたくさんいると思います。この方々の存在が身近に感じられないのは、そういう環境、状況にあるからだと思います。小学生、中学生くらいから、そういう勉強や、存在について触れる事が大事だと思います。
- 最近、オネエ系の芸人がテレビに多く出演するようになり、ある程度理解されつつあると思うが、まだ笑いのネタ的なものが多いのではないかな。反対にオナベ系は少ないのではないかな。テレビの影響は大きいので、しっかりとして取り組みが必要であると思うし、逆にテレビ報道を活用した取り組みを行い、共生へ向けての社会づくりを行ってもいいのでは？
- 昨年初めて、性同一性障害の生徒とかかわることがありました。本人よりほんの浅く話を聞いたりしただけでしたが、最近では芸能人をはじめ多くの分野でカミングアウトしておられる方々がいまいます。まだ生徒の中には誰にも言えず悩んでいる生徒もいると思われれます。上記のよう、わたしは研修で学習することができました。社会の授業や人権教育においても理解させる機会をもてたらと思っております。
- 卒業後数年して性同一性障害であることを打ち明けられた。在籍中にその様な悩みがあったのかはわからない。なかなか言い出すことができないのが現状であるから HR などで展開する必要はあると思う。
- LGBT の正確な情報、学びが今日の教育現場では必要。興味本位なセクマイ《セクシュアルマイノリティ》への目線を正す必要がある。特に性同一性障害と同性愛は異なるものであることを認識してほしいと思う(生徒にも教員にも)。人が人を愛することは普通のこと。同性愛は私にとっては極めて自然なことである。

＜教育現場で扱うべきではない＞

- あまりに多様な内容を学校現場であつかうべきではない。
- デリケートな問題であり、いずれが正しいと言える問題ではないので、(HR で銘打って) 授業として実施するのは難しいように感じる。
- 学校でやることが多く、またすべて学校で取り上げなければならないか疑問である。個人の自由については国家は干渉しないということが基本であり、公教育の場でもそれを尊重しなければならないと思う。

＜慎重に扱うべき＞

- 個人のプライバシーを侵害するおそれがあるので、授業などでの取り扱いは慎重にと思います。
- 同性愛者の中には、過去のトラウマ（異性愛の失恋や失望、異性による性暴力やレイプ）により同性愛者になってしまった場合もあると思う（特に女子の場合）。ただ単なる性の好みや趣向とは大きな違いがあるので、慎重に扱うべき問題であると思う。
- 個人で性同一性障害や同性愛を判断することは難しい。高校生等、思春期で性に興味をもち始めた子どもたちが興味からそのようにふるまうことも多いと思われる。また、それはからかいや話題としてあがることも多く、どこまでが真剣でどこまでがお遊びかの判断は、一教員ができる内容ではないと感じる。教える必要があるとも思うし、人に好意をもつというのは自然とわく感情であるとするれば、「教える」ということがそぐわないようにも思う
- 異性愛以外の性的指向、同性愛、性同一性障害のみを取り上げるやり方には疑問を感じる。発達段階（生育）～教育の場面の1つとして持っていなければならない知識だと思うが取り上げ方によっては新たな問題（偏見）を生む気がする
- 性同一性障害や同性愛についての授業を高校までにする必要はまったくないと思います。かえってクラスの生徒に偏見やあらぬ疑いをかけて、逆効果。もう少し大人になってからが良いと思う。そもそも授業をする教師自身が、同性愛や性同一性障害について理解できると思わない。形式だけならやらないほうが良い。もしするなら、同性愛や性同一性障害を持った人が授業をするなら良いと思う。それ以外は不可能だと思います。

＜教師側が知識不足・研修が必要＞

- 1000人以上の生徒がいる以上性同一性障害や同性愛の生徒は必ずいると思われるが教員側の意識が伴っていないのが現実。勇気を出して打ち明けてくれても対応しきれない教員も多数いると思う。どのように対応し、どこにつなげていけばいいのかは教員側としても知るべきであり、そのような研修も必要であると思われる。
- 「性の多様性」については、個人学習と教員研修の中で理解を深めることである。医療系の学校を除いて、教員養成を含めて教育機関で学ぶべき必要はないと考えます。その理由は、ほかに学ぶべく課題が多くあると考えるからです。さて、高校生で扱うならば、『保健』ではありますが、大切なテーマでありながら1単科目であり限界があります。ともかく、教師は教育相談の一環として研修を積んでおく必要はあると思います。
- 基本的に知識不足であること。自分の中の性についての意識や知識に、十分さと言うか自信、あるいは自己理解も不十分であると感じる

- 性の問題は人間にとって（生物全てにとって）避けては通れない重要なことである。であるがゆえに、違う文化？であることに畏怖の念を抱き、排他主義的になり、つまりは差別となっていてるのが現状でしょう。やはり幼いころより正確にまじめにきちんと教えないと、物心ついてからでは遅いこともあるのではないのでしょうか。そのためには教える側に偏見や差別があってはならないことです。十分な研修が必要になってくると思います。
- 国民的年末番組（テレビ）の紅白歌合戦においても数年前に性同一性障害のことを大きく発表して、曲・歌手本人の紹介をしていました。世の中は動きだしている事を感じますが私たち教員の知識が足りないと思います。
- 同性愛や性同一性障害について理解しているつもりだが、自分でどの程度理解できているのかわからない。十分なのか、不十分なのか？おそらく、もっと研修が必要だと思う。
- 今後学校現場においても重要な問題となってくるであろうと思われる。研修等の充実が必要であると考えます。
- 教員の中にも同性愛や性同一性障害への偏見や差別発言が多々ある。生徒が知識不足、認識不足でそのような偏見や差別があるのはある意味仕方のないことだとは思いますが、正しい認識を持てるよう、早い段階で指導していく必要があると思うし、教員にも意識、認識と知識を持ってもらいたい。学校においては、いじめ、不登校、部落差別、就職差別等が中心になっていてなかなかこのことについて学んだり、指導したりする機会がない。私のまわりにも同性愛や性同一性障害の知人や友人が多数いる。生徒にも悩む必要はない事をわからせたい。
- デリケートな問題なので、教員が「正しい認識」をしつかりすることがまず肝要。中途半端な認識や誤解、偏見を残したままの生徒への指導は、さらに大きな誤解や偏見を生む。研修を教員にさせるなら、本当にきちんとした形にするべき。
- 1年の講師生活のなかで出会った事はありません。ただ、差別や偏見をなくすためには、まず知ることが必要だと思っています。そのためにはまず私自身の知る必要性を感じていますが、その「知る機会」となかなか出会えないことをもどかしく思います。
- 人間の内側に関わる問題なので、対生徒となると、その対応方法は慎重でなければならない。何らかの研修が必要であると思う。
- 人権作文において、自分が性同一性障害であるとカミングアウトしてきた生徒がいた。サポートしている団体を紹介してあげた。当該の生徒にどこまで質問していいか迷った。セクハラにとられかねないと思ったので。教育現場でもっと研修をするべきではないかと。
- 私自身が気づいていないだけで、周りに性同一性障害や同性愛の家族、知人、友人がいるのかもしれない。多種多様な時代にあって、無知である自身が情けない。最低でも、知識として研修を受け、対応のできる教師でありたい。
- 今後は、ジェンダーフリーはもちろん性同一性障害についても教師自身がよく理解して、生徒に正しい知識を伝えていく必要があると考えます。
- （性同一性障害・同性愛の）この二つの問題について、“教師”としての自分のスタンスと個人としての根本のスタンスのギャップに悩んでいる。そのため、より詳しい研修を受けたい！
- 診断基準がよく分からない。本人の申告や言動をもとに判断する場合もあるのか、そういった基本的な知識が無いので、時間を割いて複数回研修に参加したい。